日本エコレザー対談㊸

本田 桂一氏
（東京製革業産地振興協議会会長
／㈱本田産業社長）

吉村 圭司氏
（NPO法人日本皮革技術協会 副理事長）

稲次 俊敬氏
（NPO法人日本皮革技術協会 副理事長）

日本の〝革と革製品の良さ〟を消費者に繰り返し伝えていこう

左から稲次氏、本田氏、吉村氏

東京・墨田はピッグスキンの一大産地として発展

吉村　いつも日本エコレザー座談会をご愛読いただきありがとうございます。

今回は東京の革産地・墨田区にうかがい、東京製革業産地振興協議会会長である本田桂一様にお話をお聞きします。

はじめに産地の概要からお話しください。

本田　東京・墨田は古くから豚、牛、やぎ、羊皮のなめし・染色の一大産地であり、特に豚（ピッグスキン）は輸入に頼ることなく国内需要の全量を自給しています。

豚のなめし産業というのは明治時代からです。

昭和54年に、東京都が産地中小企業対策臨時措置法というのを作りまして、それに向けて翌年、墨田区・荒川区・足立区・葛飾区・江戸川区にある5団体が結束して、協議会が発足しました。

私の父・本田利佐吉が初代会長になっています。以降、父は平成9年に亡くなるまで会長職を務め、その後すぐに私が会長職を引き受けて、今日に至っています。私は2代目なんですよ。大学を卒業して昭和34年に本田産業に入社しました。

吉村　協議会はどんな活動をされてきましたか？

本田　昭和56年春に浅草で第1回目の合同展を開催しました。翌年からは協同組合資材連が主催する「東京レザーフェア」にグループ参加しました。これは今でも続いています。

昭和58年にはピッグスキン（豚革）をメインした第1回「ピギーズスペシャル」というファッションショーをラフォーレ原宿で実施。これも今日まで毎年開催しています。

そのほか東京で毎年開かれる素材見本市「ジャパンクリエーション」や「東京ギフトショー」にも参加しています。これも続いています。

昭和62年からは海外にも進出。

吉村氏

本田氏

第1回目がパリの国際見本市、その次がドイツのデュッセルドルフ、それから香港のＡＰＬＦに出展。香港は連続で10数回出ましたね。

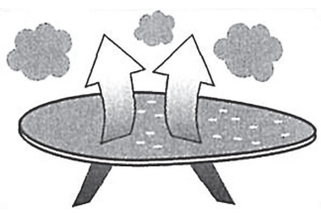
吉村　ピッグスキンは日本特有だから、注目されたのでは？

本田　そうですね。海外では豚肉は皮ごと処理したり、食べたりしますから。

日本のピッグスキンはしなやかで加工がしやすく、染色、仕上げ、型押し、インクジェットプリント、箔押し、転写フイルムほか多彩な表現が可能です。革靴の裏材としても最適です。

そういう特性から、海外出展で輸出が伸びました。

その後、輸出が為替でだんだん苦しくなった。当時は１ドル３６０円だったものが今は１００円でしょ。このころ台湾でも盛んにやるようになったから。57年には不況業種になってしまって、陳情書、要望書を役所に出すようになりました。


ピッグスキンは、皮に毛穴が貫通していて、繊維の束が細く、すき間が空いている。吸湿・透湿・通気性に富んでいます。

ラジオ、カメラケースから鞄までヌメ革が売れた

稲次　本田産業さんは、創業以来ずっと豚革一本だったのですか？

本田　いえ、うちは戦前が豚革で、昭和30～40年代はヌメの牛革がメインでした。ソニーに随分売っていたんですよ。トランジスタラジオの革ケースです。あれは全部うちの革でした。大学生時代に集金に行くと、半分小切手で、半分株券でした。あのソニーが「お金がないから」って。そんな時代でした。他社でも手掛けるようになって、売上げが落ちてきた。

それで、カメラケースの革に切り替えたのです。これも牛のヌメ革です。キヤノン、ヤシカ、ミノルタなどが得意先。カメラケースの革ひもは、普通のヌメだと切れちゃうんですよ。でも、うちの革だと切れない。納品が間に合わないほどでした。その後、カメラケースはソフトなクロム革に変わって行って、ヌメのケースは売れなくなりました。

そしたら今度は、ヤング向きのカジュアルベルトが流行りだしたの。ヌメの厚い４～５㎜厚のものです。余った革はかばん屋さんに収めました。そのころは、学生鞄やランドセルはほとんどヌメ革だったから。でも鞄もそれから合成皮革になってしまい、うちも牛から豚に切り替えました。

稲次　会社の歴史と革需要の歴史が重なり合っていますね。

本田　うちはずっと運が良かったんですね。ピッグスキンに切り替えてから、今度はスエードがヒットしました。

スムースは靴用ライニング（裏材）用として全部イタリアに輸出し、スエードは全部韓国に輸出しました。年間５００万平方フィート。売上げは月４０００万円ぐらいでした。しかしながら、その頃から台湾の追い上げが始まりました。

稲次氏

これはね、非常に残念なことに日本の技術者が教えに行くんですよ。台湾だけじゃなく中国にも行く。ドイツのバイエルなどの薬品業者も薬品を売りたいから熱心に行く。すると1カ月もするとコピー品が入ってくるようになった。

皮革関連産業というのは先進国になったら、人件費が高騰してやっていけない産業なんですね。独仏英米、みんなそうでした。

この頃、墨田区にはピッグスキンのタンナー(なめし業者)と関連業者が200社以上ありました。今は全部で40社も無いかな。豚革専門なら5、6社しかない。

この3年間、業績は非常に良くないですね。

この2年間は豚コレラの影響で仕事が減り、それで今は、コロナですから。

日本の革と製品を集めた「日本革市」がヒット

吉村　でも、生き残っていかなくてはいけないですね。

本田　そうです。日本でなめした革を日本人が作り、いや海外に委託生産した製品でもいいですが、それを消費者に買っていただければ日本のタンナーは生き延びられます。

そのためには、われわれはしっかりPRしなきゃならない。

(一社)日本タンナーズ協会では、平成21年4月、(一社)日本皮革産業連合会の受託事業として、松屋銀座で日本産の革と革製品のPRイベントを行ないました。

一般消費者へタンナーはどういうものか知ってもらい、日本産革を直に触れてもらい、その良さを実感してもらう展示をやりました。1年目から予想以上に反響はあり、年々来場者が増え、売場においても日本製の革製品がよく売れました。

革の良さ、作りの良さをきちんと伝えることができれば売れます。こういうイベントを単発ではなく、繰り返し行うことですね。出来たら全国ネットのテレビに大々的に広告を打ちたい。でもテレビ広告は高いんですよね。

その後、(一社)日本タンナーズ協会が、「日本革市」として、独自に事業を行うようになりました。

全国各地の百貨店で、期間限定でコラボレーションをしています。予算的に、百貨店10か所ぐらいは開催できます。この事業は、今でも続いています。

続けてきて分かったことは、やはり適切な場所でないと売れません。私は「日本革市」の時は2時間くらい先に行って売場の担当者に会って聞くんです。

すると、東京に新幹線で短時間で行けるようなところでは、しゃれた製品は売れない。若い人は地元で買わない。やっぱりブランド品が欲しいのですね。お金持ちの奥さんも東京に行きます。

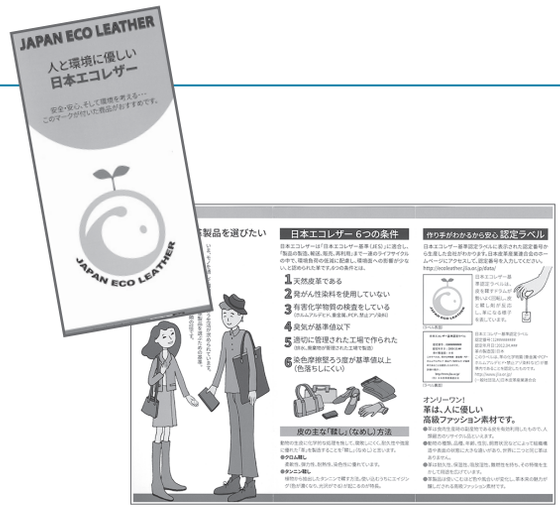
稲次　「日本革市」の成果はよく耳にします。

本田　成果は上がっていますよ。やればやるほど良くなる。ただね、デパートではパート販売員とかだと、革の良さなんか教えてくれないんですよ。

お客さんはデザインと値段だけで買ってしまう。それはちょっと頭が痛いんですよ。

吉村　極端な話、豚革も牛革も違いが分からないから。

漫画版パンフレット。和英中の3カ国版がある



日本エコレザーのパンフレット。和英の2カ国版がある

本田　そうです。ワニの型押しなんかも素人が見たらわからない。販売員と消費者の両方に教えないといけません。

タンナーとかデパートのベテランに目利きの人がいる。定年になった人を使うのもいいですね。

エコレザーのパンフレットや講習会も活用したい

稲次　日本エコレザーも一緒に宣伝したらいいのでは？

本田　いいですね。エコレザー認定はどんどんやるべきです。

特定のアゾ染料の発がん性の問題とかあるから詳しく検査をしておかないといけないね。

稲次　実は日本皮革技術協会ではこういうパンフレットも配布しているんです（写真上）。日本エコレザーのパンフレットで、手前味噌ですが、イラストも入って分かりやすくまとめてあります。まだ、十分に行き渡ってはいませんが。

あるハンドバッグ屋さんは、エコレザー製のバッグや小物をオリジナルでたくさん作っていますが、パンフレットを一緒に置いていると、よく売れているんです。説得力があるし、パンフレットを持って帰るお客さんもいる。

英語版もあります。インバウンドで台湾はじめアジア系の外国人観光客の間で人気があり、よく買ってくれるそうです。

本田　ハングル語とか中国語とかもあるといいね。

対談の様子

吉村　漫画版もあるんですよ。これには日英中と3カ国版で作りました。

いま日本皮革技術協会はこれで売場を積極的に応援するって言ってるんです。

毎年、全国で行っている「革・革製品の知識講習会」でも革のレクチャーやワークショップで啓蒙に努めています。

どんどん利用していただきたいですね。

日本エコレザー、6つの条件

①天然皮革である
②発がん性染料を使用していない
③有害化学物質の検査をしている
（ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料）
④臭気が基準値以上（臭わない）
⑤適切に管理された工場で作られた革
（排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造）
⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上

※これまでの「日本エコレザー対談」は、www.japan-ecoleather.jpのトップページの《業界情報》の項でご覧いただけます。